

# 作文・記述の答の書き方

## 1 作文の書き方

文体を統一すること

法則

表現には「です・ます調（敬体）」と「だ・である調（常体）」がある。  
作文を書くときは、どちらかに統一すること。

● 友達が「手伝おうよ」と言った。僕もその方がいいと思いました。  
ました。

↓ 「言った」に合わせるなら、「思った」。

↓ 「思いました」に合わせるなら、「言いました」。

● 手紙はいくら心がこもっていても届いていなければ意味がない。だから電話を選びました。

↓ 文体不統一。敬体と常体のどちらを用いてもよいが、どちらかに統一する。

敬体なら、「ない」を「ありません」に訂正。

● 私は、電話で担任の先生に連絡する。電話で伝えたほうが早く先生のつづが早く聞けるからです。

↓ 「連絡する」は常体。「聞けるからです」は敬体。  
どちらかに統一する。

敬体なら、「連絡する」を「連絡します」に訂正。

話し言葉に注意

法則

作文では「話し言葉」は使わないこと。

話し言葉はうつかり使ってしまうことが多く、特に注意が必要である。普段、先生などに話をするときに、ていねいに話をする訓練をしておくと効果的である。

● どう書いたらいいのかわからなくなるけど、やっぱり手紙の方がいいと思います。

↓ 「けど」「は話し言葉。」「けれど」に訂正。

↓ 「やっぱり」は話し言葉。「やはり」に訂正。

- 担任の先生と「いろんな話をしたいからです。」

↓ 「いろんな」は話し言葉。「いろいろな」に訂正。

- 直接話すことはできないけど、ちゃんと伝えたいことが伝わると思っ。

↓ 「けど」は話し言葉。「けれど」に訂正。

↓ 「ちゃんと」は話し言葉。「きちんと」等に訂正。

↓ 「〜とかが」は話し言葉。「〜などが」に訂正。

- 言葉でしっかりと伝えることができるんじゃないかと思いましたが。

↓ 「んじゃない」は音便化した話し言葉。「のでは」に訂正。

- 僕は早く用件を伝えた方がいいと思います。なので、電話で連絡する方を選びます。

↓ 文頭の「なので」は話し言葉。「だから」に訂正。

- なのでぼくは、もし小学校のときの担任の先生に招待の連絡をするならば…

↓ 「なので」は文頭に接続詞として用いてはいけない。

「だから」等に訂正。

↓ よくあることなので、……………。

よくあることです。なので、……………。

(○) (×)

## ら抜き言葉に注意

法則 「五段活用の動詞」以外は、「られる」をつける。

上二段・下二段の動詞には「られる」をつける

答える 答えれる(×) 答えられる(○)

着る 着れる(×) 着られる(○)

食べる 食べれる(×) 食べられる(○) など

「ら抜き言葉」は一般的によく使うようになっていて、作文では減点の対象となるので、注意が必要。

- 残念ながら、ぼくは見れなかった。

↓ 「見る」は上二段活用の動詞なので、「見られなかった」。

- 先生からの質問などにもすぐに答えれるし…

↓ 「答えれる」は「ら」抜き言葉。「答えられる」または「答えることができる」に訂正。

- そのほうが大事なことを伝えれると思う。

↓ 「伝えれる」はら抜き言葉。「伝えられる」に訂正。

## 言葉の重複に注意

### 法則

同じ言葉の繰り返しはさける。

- 私が思ったことは、電話のほうがいいと思う。

↓ 主語と述語が不一致。また、言葉が重複している。  
「が思ったこと」を削除。

- ぼくの感想は、素晴らしいと思った。

↓ 「感想」と「思う」は同じ意味である。  
「の感想」を省くか、「素晴らしいの一言だった」  
などとする。

- ぼくの夢は、野球選手になるのが願いです。

↓ 「夢」と「願う」は同じ意味である。  
「の夢」を省くか、「野球選手になることです」  
などとする。

- 私は、電話で担任の先生に電話をする。わけは、電話で伝えたいことが伝わる時間が早くて先生のついでが早く聞けるからです。

↓ 電話で電話をする、同じ語の二重使用は×。  
「電話をする」を「連絡(を)する」に訂正。  
↓ 「わけは」は話し言葉。  
「そのわけは」や「その理由は」に訂正。

↓ 「伝える」を2度使っている。

「電話で伝えた方が」を「電話の方が」に訂正。

↓ 「早く」を2度使っている。

2つ目の「早く」を「すぐに」等に訂正。

- 僕が思うに、手紙のほうがいいと思います。

↓ 「思う」という動詞を2度使っている。  
「が思うに」を「は」に訂正。

- その日は、とても寒さが寒かった。

↓ 「寒さ」を2度使っている。  
単に「とても寒かった」でよい。  
または、「気温が低く、とても寒かった」など。

## 言葉のねじれ・主語・述語の不一致に注意

- 手紙のよいところは、相手に気持ち伝わりやすいです。

↓ 「ところ」は「〜」やすいです。「では主語・述語が一致していない。」「こと」です。」に。

- 私の夢は、歌手になりたいです。

↓ 「夢は」〜「なりたいです」。「主語・述語の不一致」なることです。「などとする」。

- 理由は、電話の方が早く伝えることができます。
  - ↓ 「理由は」でできます。「主語・述語の不一致。理由」なので、文末は「できるからです」等に。

- 私は、みんなが一致団結して一生懸命練習した。

- ↓ 「私は」に対する述語がない。  
「練習したことがうれしかった。」など。

- 私は、みんなが一生懸命やるのが大事です。

- ↓ 「私は」に対する述語がない。  
「大事だと思います。」などとする。

- たぶん友達はそう思った。

- ↓ 「たぶん」は「だろう」で受けるのが普通。  
「思っただろう」などとする。

## その他注意すること

- 1度しか会えなかったら…

- ↓ 漢数字「一」に訂正。縦書きなので例えば「3時」「1回」などの数字も漢数字で。

- 私はバスケットが好きで、今後も続けていきたいと思っています。

- ↓ 若者言葉や、一部で使われている省略語は使わない。  
パソコン・省エネなど一般に使われるものは使用可。

- 手紙のほうがスゴク気持ちが悪く伝わると思っています。

- ↓ カタカナにしない。「スゴク」を「すごく」に訂正。  
④ カタカナ表記するもの

擬音語 ドシン ピューピュー パチン ガシャン  
擬態語 キラキラ シーン ソワソワ

外来語 ガラス バスケットボール デパート  
外国の地名・人名 パリ ペキン モーツアルト

動・植物名 サクラ トラ サル ソウ

- なぜかと言うと、当日前ぐらいには届かない恐れがあるから。

- ↓ 「なぜかと言うと」はくどい。「なぜなら」でよい。  
↓ 「当日前」とはつきりしているので、「ぐらい」は  
いらぬ。

- ↓ 「から」で終わるのではなく、「からだ。」など。

- 手紙を書いたり、電話をするのは先生も喜ぶと思います。

- ↓ 「くたり」は2つのものを並立させるときに用いる。  
手紙を書いたり、電話をしたり、

- 先生からの質問なども、すぐに答えられるし…

- ↓ 「質問なども」は「質問などにも」

- 僕は、電話で連絡する。という案を選びます。  
↓ 文中に句点を用いない。

- 私が、Aの案を選んだのは、………だからです。  
↓ 文の「始まり」としては不適切。

- ↓ 最初にどちらを選ぶかを書いて、その後理由を書く。  
私はA案を選びます。その理由は………だからです。

- 確かに手紙で連絡すると言つのも、気持ちがいっかりと書ける所は良いと思います。

- ↓ 「言つ」をひらがな「いう」に、  
↓ 「所」をひらがな「ところ」に訂正。

\* 補助動詞や形式名詞はひらがなで書く。

④ 補助動詞や形式名詞

「手紙を書いてみる」ことにする「の」「みる」「や」「こと」「ちようど出かけるところだ」「の」「ところ」「、」など  
「ところ」「とき」「こと」「もの」等が具体的な物事を示さない場合はひらがなで。

- 僕にも同じような経験をしたときがあった………。

- ↓ このような「とき」使い方は誤用。  
「した」ことがあって「に訂正」。

## 2 記述の答の書き方

- (1) 「問い」に合わせた答えを書くこと。

- その理由を答えよ。  
↓ 「〜だから」「〜なので」「〜」などで終わる。

- その目的を答えよ。  
↓ 「〜のため」「〜すること」「〜」などで終わる。

- 「それは」のそれが指す内容を答えよ。  
↓ 「〜は」に続くような答えを書く。  
「それ」が主語になっているので、「〜すること」「〜」などで終わるような答えにする。

- (2) 使用する言葉に注意。

- 「ラ抜き」ことばで書かないこと。  
↓ 五段活用の動詞は「れる」「でも可」。  
「書く」「書かれる」  
↓ 「上二段」「下二段」の動詞は「られる」。  
「着る」「着られる」  
「変える」「変えられる」

- 話し言葉で書かないこと。

- (3) 指示語やたとえの表現のまま書かず、それぞれについて何を指しているのかを明らかにして書くこと。